

心の糧に春を待つ

仲嶺 真弓

1月後半、いつかこんなことが…と思っていた状況がきてしまいました。コロナになんか負けるものか！と過ごしてきた日々が、あっという間の突風にさらわれたような瞬間でした。長いコロナ禍、どの職員も保育園が休園にならないようにプライベートの生活も気を付けてきました。毎朝出勤時に検温し、お互いの体調には気を配り、体調のことで気になることは発信しあい、出来得る限りの感染予防をしながら、日々の保育にあたってきました。その努力もむなしく、陽性者が確認され、3日間の休園となりました。休園した3日間は、職員の二次感染を防ぐために関係箇所を消毒し、濃厚接触者の特定、各方面の連絡など対応に追われました。追われる中、子どもや保護者の制限される生活など考えると心苦しく、その中での出てくる気持ちは自然なことだと考え、どんな思いも受け止めようという気持ちでいました。

けれど、そうではなかった。対応の中で保護者とやり取りする中で注がれた言葉は、「先生たちの方が大変。」「もしかしたら、うちの子が先だったかもしれない。」「用心していても感染するし、感染したということは保育園でみんな楽しくあそんだんやなあと思う。我が家は大丈夫だから、担任には気にしないでとお伝えください。」など、暖かな言葉でした。心救われました。それだけではなく不安や疑問をそのままにせず、「公表される情報が少なく不安」「こうなったことは、仕方がないことと思っています。もう少し詳しいことが知りたいです。保護者の保育利用の判断基準も変わるので教えてほしいです。」という思いを直接伝えてくれた人もいました。各関係機関（熊取町、保健所、園医）と連携して考え対応に追われながら、保護者の不安な思いにどれだけ寄り添えたかと問われると、力及んでいなかったことは否めません。それをきちんと伝えてくれ気づかせてもらったこともとても心強く思いました。

保護者の中には自分のクラスのグループラインに「大丈夫か～」と発信してみたという人もいたと聞きました。この非常事態に少しでも孤立して不安にかられ夜を過ごす人がいないようにと思いを込めての発信にありがたく、そして頭が下がる思いでした。

保育園は、安心して過ごせる場所でありたいけれど、集団生活の場でもあるので、コロナに限らず感染についての心配はないとは言い切れません。集団の中で育まれる心の育ちと感染症から徹底して身を守ること、この相反することが混在している保育園の現状です。コロナが終息まで、まだしばらくはこの不安な状態が続きそうです。休園にならないようにと願いながらも、ならないとは言い切れない現状です。安心して過ごせる場所は、職員の力だけではなく、保護者と支え合いながらつくられていくのだということを今更ながら実感しています。

このコロナの嵐の中で、孤立する人がいないように、共に乗り越えていきたい。ただそれだけを心の糧に、インフルエンザと同じように、コロナと共存できる日がくることを待ちたいと思います。

